

はじめに

平成4年度の総理府の調査では、「物の豊さ」重視派が2割なのに対し「心の豊さ」重視派は6割に達しており、消費者の物に対する価値観も高度な機能はもとより、感性上の付加価値を重視する傾向が読み取れます。他方、情報化社会が急激に進展し、経済の発展、科学技術の広がり、情報の氾濫からストレスの増加が指摘され、精神生活を安定したものにする必要も叫ばれております。

このような社会動向を踏まえ、通商産業省においても“心=感性”というキーワードから次代の社会像を「感性豊かな社会」と位置付け、個人、企業レベルで人間の感性を重視する方向を提言致しております。

当財団の主業務であります「音」におきましても、人間の生理・精神にどのような影響を与えているのか、聴覚にとって“美しい音”とは一体何なのか、これらのテーマを迫及することは誠に興味深いものがあります。本報告書は、「人体と音のコミュニケーション」という視点から、感性に連なる要素を軸として音と人間との関わりの有り方を探ったものであります。この成果が関係各位及び「感性社会」の実現に幾等かでも貢献できますれば幸いと存じます。

最後に、本報告書の作成にあたりまして、調査研究に快くご協力頂きました関係機関、企業の方々、及び貴重なご助言を頂きました各位に深く謝意を表します。

平成5年9月

財団法人 サウンド技術振興財団

理事長 河合 滋